

令和7年度 綾瀬市立綾南小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よく学ぶ子 (実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得) ・よく考える子 (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成) ・高めあう子 (学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養) ～温かい未来を創造する人材(財)を育成する～ 	
学校経営方針 (グランドデザイン)	<p style="text-align: center;">令和7年度 綾瀬市立綾南小学校グランドデザイン</p>	
今年度の重点目標	心と頭で考え、よりよく行動する子	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく学ぶ子 (実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」)」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童の約9割が肯定的に回答しています。また、教職員はすべてが肯定的に回答しています。一方で、保護者の肯定的な回答は約7割となっており、児童や教職員の回答とずれが大きくなっています。このことから児童の進んで学習に取り組む姿勢は、学校内にとどまっていることが分かります。児童一人ひとりの「進んで学習に取り組む姿勢」が実生活にもつながるよう引き続き授業改善を行っていきます。
2 教育課程	児童は、学校行事やクラブ活動、委員会活動、係活動に積極的に参加している。	各活動に進んで取り組んだり、楽しく参加したりしたことがうかがえる結果となりました。運動会や音楽朝会の前には、各行事のめあてを達成するために自分がどのように取り組んでいくかを書かせ、行事終了後には振り返りを書かせるようにしました。個々がどれだけめあてを意識して取り組めるかが、行事全体の質の向上や個々の成長につながるため、引き続きその視点を大事にして指導していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「よく考える子 (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」)」	各教科の中で自分の考えをもつ活動を重視しているのはもちろんのこと、授業以外の学校生活の中でも、自分で考えて判断することが多く求められます。児童の中には、自ら考える前に、教職員に判断を委ねる行動も見られました。まずは自分で考えて判断させ、その判断で失敗しても失敗した後どうするかをさらに考えさせ、自ら考え行動できるよう、教職員が児童に寄り添いながら指導していきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	学校生活が楽しく送れていると思えることは大事なことだと思っています。楽しいの中身は、学習の充実や友達との関係、教職員との関係などがあると思いますが、どの点においても個々の感じている「楽しい」の質が上がるよう、日々の授業や人間関係を充実させるための取組を行っていきます。また、教職員は常に児童の視点に立って指導を行い、児童からの信頼を得られるように努力を重ねていきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	教職員と保護者の意識に差が出ています。毎月のスクールアンケートを実施し、アンケートの回答から必要に応じて、児童に話を聞いたり、問題の解決に向けて教職員が児童と一緒に考えていることを保護者に知ってもらう必要があると思います。また、いじめのない学校にするために、どんな取組ができるのかを児童会活動とも連動しながら考えていきます。
6 保健管理	学校は、「高めあう子 (学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」)」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	約9割の児童が、健康や安全に気をつけて、楽しく学習ができていると回答していることから、授業時間等は意識を高くもち学習に向かうことができていると思われます。しかし、校地内での過ごし方を見ていると、危険につながる行動も見られることから、今後も職員間で共通理解を図り、児童がより安全に過ごせるような声かけを行っていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	次年度も、児童が安全に学校生活を送れるように、毎月施設や設備の安全点検、整備を丁寧に行っていきます。また、いつ災害が起こるか分からない現在の状況に対応できるような職員研修の充実を目指します。児童が避難訓練等に真剣に取り組んでいる様子も見られるため、今後も自分の安全を守るための行動ができるように避難訓練の充実を図っていきます。

8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	教職員、保護者、児童本人のニーズに応じてケース会議を開催したり、面談を行ったりしながら、チームによる組織的な対応を行ってきました。今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を図り、全職員で児童情報を共有しながら適切な支援を行うことができるように努めていきます。
9 組織運営	学校は、校長を中心とした運営組織となっている。	グランドデザインを念頭に置いて学校運営を進めることが概ねできました。今後も校長を中心とした運営組織の中、PDCAサイクルを実践して、よりよい学校づくりに努めていきます。また学校・保護者・地域の連携がより有意義なものになるよう、その連携の仕組みやそれぞれの活動内容について見直していきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	教職員の力量を高めるための研修に取り組んでいるかどうかについては、全教職員が肯定的な回答をしているものの、ややそう思うとの回答の比率が高くなっています。今後も校内研究を通して、教師間の指導力向上、共通理解を図るとともに、教育に関する最新の動向や教職員のニーズをもとに、児童の指導に反映されるよう研究・研修計画を立案していきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	児童の情報共有を綿密に行うことで、一人ひとりの様子を把握することはできていますが、その先の効果的な指導の仕方については、教職員でもっと練り上げる必要があると思います。目指す児童像を明確にして、そのために取り組むべきことは何かを考えながら、児童の成長につながる適切な指導をしていきます。また、教職員がどんな視点で児童を見ていて、それにどんな価値づけをしているのかを保護者にもっと伝えていくようにしていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	次年度も授業参観・懇談会、個別面談、「学校へ行こう週間」、土曜授業参観を行うとともに、学校だよりへの学習活動の掲載などを通して、保護者や地域に向けて情報を発信していきます。また地域学校協働活動を核とした地域や保護者との連携体制を整え、より有意義な関わりができるようにしていきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、地域連携をより促進していく会にするのであれば、青少年健全育成会や自治会等の団体から委員を選出する考えもあるのではないか。 ・子どもたちが多くの人と関わりを深めるため、地域の祭りやイベントなどを学校に周知してもらうのはどうか。 ・学校の行事に、地域の人を集めて参加、協力してもらうようにしてはどうか。 ・学校評価報告書の1、5、11、12の項目について、保護者と教職員の差異がある。差異が縮まるよう、また、これらの項目が肯定的な回答になっていくよう取り組んでほしい。 		